

「立川の史料を読む会」活動紹介

市史編さんと市民との協働作業

「立川の史料を読む会」^{*i}は、市史編さん担当と市民の皆さんとの協働作業の場として発足しました。発足のきっかけは、市内で長きにわたって、古文書の解読や史料集の編さん活動をされてきた「公私日記研究会」^{*ii}の方々に、市史編さん事業として、古文書解読を一緒に行うことについて呼びかけたことでした。

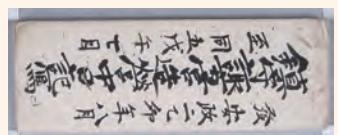
初めての試みであったため、会の運営や、解読する古文書の選定など、「公私日記研究会」の方々と相談しながら進めていきました。具体的な活動は、編さん事業の中で新たに存在が確認された古文書の中から、内容・分量共に市民の皆さんと解読することに適した古文書を選び、輪読会形式で進めることとしました。

この特集では、本会がこれまで行ってきた活動を振り返るとともに、参加者の皆さんとの声を紹介します。

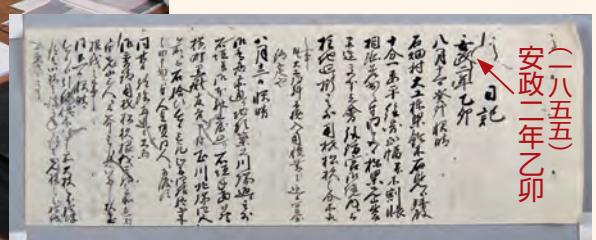


▲「立川の史料を読む会」活動のようす（平成28（2016）年撮影）

▼写真1a（續じ位置右）
「鎮守諏訪宮造営中日記写」の表紙
(『鈴木家文書』立川市歴史民俗資料館所蔵)



▼写真1b
冒頭部分



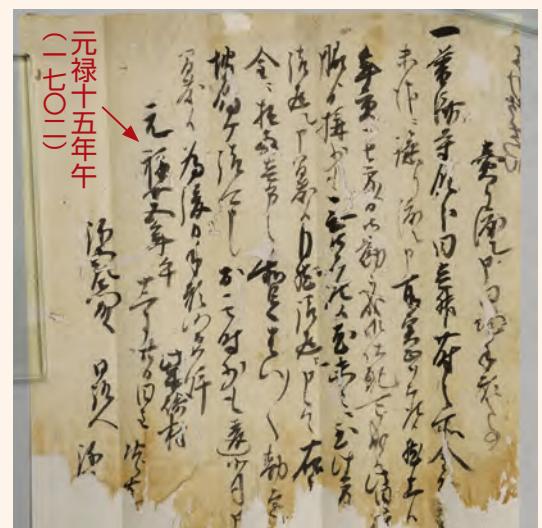
平成28年度の活動

平成28年度の活動は、月2回・隔週金曜日の13時30分から15時30分まで、歴史民俗資料館の会議室で行いました。「公私日記研究会」からは14名の方々にご参加をいただき、市史編さん担当の専門嘱託と調査員が事務局として会の運営・進行にあたりました。第1回「立川の史料を読む会」は、5月20日に開催されました。

輪読した古文書は、柴崎村で江戸時代に村役人を務めた鈴木家に残された古文書^{*iii}の中から、安政2（1855）年「鎮守諏訪宮造営中日記写」（横帳・全46丁、以下「日記」という）を選定しました（写真1a,b）。はじめに、日記1日分の記事を原則として1人分の解読・翻刻分量と決め、参加者一人一人に割り当てました。1回の会で解読を行う担当者は2～3人とし、各担当者には事前に割り当てた箇所の解読・翻刻を行っていただきました。

会の当日は、担当者が作成してきた翻刻文を音読し、合わせて内

▼写真2
「売り渡シ申田畠手形之事」（『小川家文書』）



容の解説も行っていただきました。参加者は、担当者から配られる翻刻文と解説文に目を通しつつ音読される内容にも耳を傾けます。その後、みんなで話し合い、翻刻した文字に訂正が必要と思われる箇所があれば、直した上で日記翻刻文を仕上げていきました。

年度内での日記解説終了が危ぶまれた時期もありましたが、参加者皆さんのがんばりに助けられ、第19回目にあたる平成29年3月3日に無事読み終えることが出来ました。

結果として、右表のとおり全20回にわたる活動実績を積み上げ、日記の解説文は、市史編さん担当と参加者の皆さんとの協働作業によって完成した最初の貴重な成果物となりました。

平成29年度の活動

2年目を迎えた今年度は、柴崎村で江戸時代初期に村役人を務めた小川家に残る古文書^{※iv}を素材としました。今年度は前年度のように日記1冊を一年間かけて読み進める形をとらず、時代も内容も異なる史料計22点を1回の会につき1～2点解説することとしました。これは、協働作業の成果物が「資料編」の掲載に直結する形となることを企図しています。活動は月1回、毎月第3金曜日の13時30分から15時30分まで、参加者は、若干の変動はありましたが、前年度と同様14名となっております。前年度に読み進めた「日記」とは、史料の作成年代や性格、くずし字の字体などがかなり異なります（写真2）が、皆さん四苦八苦しながらも解説を進めています。一点一点が豊富な内容をもつ史料を丁寧に解説していくことで、江戸時代における柴崎村の様子が少しづつ明らかになることが期待されます。

ここまで駆け足でしたが、「立川の史料を読む会」の活動を紹介してきました。本会は、まだ発足して2年目を迎えたばかりで、事務局でも日々試行錯誤しながら運営しているのが正直なところです。

今後も会の方々に協力をいただき、立川に残る古文書の解説を少しづつ進めるとともに、よりよい協働作業のあり方を模索していきたいと思います。



▲ 「立川の史料を読む会」参加者の皆さんと一緒に

平成28年度開催実績				
回数	開催月日	会の内容	輪読担当者	参加人数
1	5月20日	担当による報告 ・日記輪読スタート	1	14
2	6月3日	日記輪読（2人担当）	2	12
3	6月17日	日記輪読（2人担当）	2	12
4	7月1日	日記輪読（2人担当）	2	11
5	7月15日	日記輪読（2人担当）	2	13
6	8月5日	日記輪読（2人担当）	2	10
7	8月19日	日記輪読（2人担当）	2	12
8	9月2日	日記輪読（2人担当）	2	13
9	9月16日	日記輪読（2人担当）	2	12
10	10月7日	日記輪読（2人担当）	2	13
11	10月21日	日記輪読（2人担当）	2	13
12	11月18日	日記輪読（2人担当）	2	14
13	12月2日	日記輪読（3人担当）	3	12
14	12月16日	日記輪読（3人担当）	3	12
15	1月6日	日記輪読（3人担当）	3	13
16	1月20日	日記輪読（3人担当）	3	13
17	2月3日	日記輪読（3人担当）	3	14
18	2月17日	日記輪読（3人担当）	3	11
19	3月3日	日記輪読（3人担当）→輪読終了	3	13
20	3月17日	担当による総括・来年度活動の説明	0	(13)



▲ 絵図に見入る参加者

※i 平成28年度当初は、解説する史料の性格等を考慮し、会の名称を「日記輪読会」としてスタートさせましたが、平成29年度からは日記以外の史料も幅広く読み進めていくとの考え方立ち、名称を「立川の史料を読む会」に変え、現在に至っています。本稿では、会の名称は原則として「立川の史料を読む会」と表記します。

※ii 「公私日記研究会」は、昭和51（1976）年に会員13名で発足し現在も活動を続けている市民団体です。同会がこれまで残してきた成果物は、幕末に柴崎村の名主を務めた鈴木平九郎が書き留めた「公私日記」を全文翻刻した初版本（全20冊）と、同巻末に掲載された『公私日記研究（創刊号～12号）』、同日記の翻刻改訂版（全5巻）など多くあります。

※iii 鈴木家文書は、『立川市史資料集 第四集』で771点が目録化されており、その後5千点を超える新たな文書群が発見され（立川市歴史民俗資料館寄贈文書）、現在、市史編さん事業のひとつとして資料整理を進めています。今年度末には整理結果を「新編立川市史鈴木家文書調査報告書」として刊行する予定です。

※iv 小川家文書は、『立川市史資料集 第二集』に、25点の文書の目録と解説文が掲載されています。今回の市史編さん事業の調査の中で、同家の文書を借用し再整理したところ、既に掲載された文書の他にも新たな史料が発見され、現在計227点の文書が目録化されています。

参加者の声

毎回活発に意見を出し合い、文書解読に励む参加者の皆さん。立川市内だけでなく、市外から参加されている方もいらっしゃいます。「史料を読む会」に対する思いや意気込みなどをお聞きしました。



高橋 均さん
府中市在住

この会に参加して、「公私日記」以外の立川の史料も読む機会が増えました。古文書の学習を始めて2年足らずですが、立川や周辺の往時の生活や時代背景も少しづつ理解出来る様になってきました。

下川 晃義さん
府中市在住

「公私日記」の研究会を機に出席することになりました。毎回苦慮していますが、前向きに立川の近世史への理解を深めたいと願っています。



Tさん
立川市外在住

これまで参加してきた勉強会では読んだ事のない文書を勉強出来るので楽しく参加しています。



永瀬 鉄男さん
小金井市在住

古文書を通して地方（じかた）の人々の暮らしや村の仕組みに関心を持ちました。当時の人々が手を染めた生の史料を眼前にすると、古文書学習の醍醐味を感じますね。

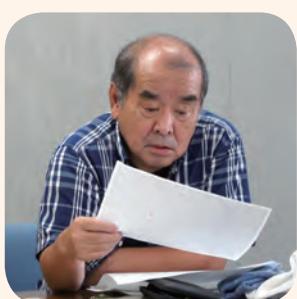
松田 説子さん
昭島市在住

今迄昭島市と立川市の文書を読み続けてきました。一番古い物で享保年間の文書でしたが、此処では現在近世初期寛文年間の文書を読ませて頂いており、次々と疑問が湧いてきて、謎解きを楽しんでいます。



増本 豊治さん
立川市外在住

古文書を勉強するようになりますが、「立川の史料を読む会」に参加して、1枚の古文書のバックにある歴史的背景を正確に把握する事が非常に大切であると痛感しました。



本江 俊美さん
飯能市在住

「公私日記研究会」に参加していく、その延長で参加させていただいております。立川市の歴史を知る貴重な会ですので楽しみしております。

西村 達朗さん
国立市在住

昨年から当編さん事業の一環である「立川の史料を読む会」に参加、今後の調査・収集に依り新たな資料群の現出を期待しつつ、新史料の解読・分析作業に携わりそれらを通して微力ながらも編さん事業に貢献できれば無上の喜びである。



日野 さよ子さん
福生市在住

「公私日記」を通して、江戸後期の多摩の歴史を学んできました。この度は江戸時代初期の文書もあり、難しさの中に言葉は生きていることを実感しています。あとは砂川の文書が読めたらうれしいな。

